

その1. <定年後>

早いものです。会社を定年退職してから、もう1年と8か月が経過しました。振り返ってみると、「毎日会社に行かなくてはならない」という拘束から解放された「うれしさ」より、人生の本番を終えて、幕がおりてしまったような「さみしさ」の方が強かったように思いますね。

少し理屈っぽい言い方で、カッコつけて言えば、自分にとっての「アイデンティティ」が見つからない、ということなんです。社会の中での自分は何者なのか？自分を一体どこに位置づければいいのか？会社という組織の中で仕事をしていた時には考える必要のなかったことを、思ってしまうんですね。

定年になって私がやった事と言えば、最初の1年間はハウスの修理と不用品のかたづけばかり、それからやっと栽培に取り組む余裕ができた、という感じですね。イチゴ栽培をメインに、アロエや観葉物をやりました。野菜の方も、豆類や玉ねぎ、ジャガイモなどいろいろとやってみました。父の残したシンビの管理もしています。

いろいろと農業をやってみてわかったことですが、農業というのは楽しみでやるならともかく、「もうけ」を出してゆくのは「至難のわざ」である、というのが実感です。かなりの規模で長期にわたってやらないと「利益」がでないんですよ。施設や資材、ほかに苗、肥料、農薬などの初期投資が必要ですが、これが馬鹿にならない出費になるんです。

なんか愚痴と言いつつ訳ばかりになってしまいましたが、それでも私は「もうからない農業」をやっていくしかないでしょうね。イチゴ栽培も初年度の今年は、薬害(?)により、致命的な失敗をしてしまいましたが、これに懲りずに再度挑戦してみるつもりですよ。

定年退職者って何者ですかね。
まだ走るけど、10年を過ぎて不要になったポンコツ車か？
金はないけど時間を持て余している、毎日が日曜日のおじさんか？
社会的役割を終えて、働かずして生活の糧を得ている年金生活者か？
これらの問いかけの答えは、悲しいかな、一応すべて「イエス」ということになりますよね。

私の自分自身に対するアイデンティティは、こうすることにしましょう！儲からなくても、いろいろと手を出して、気ままにシコシコとやっている「自由農業者」であること。それ以上でも、それ以下でもない一のだと。こうやって、最後には自分で勝手に居直るしかないのですよ。



どうせ、ワシは、ただの定年になったオッサンよ。それで何が悪いんじゃ！

(2011・6・2)